



真澄の空

令和3年10月26日 南郷中HP
号外 URL



美里町立南郷中学校 学校だより

令和3年度 全国学力・学習状況調査 について



文部科学省では、平成19年度より、全国的に子供たちの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を実施しています。（※昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施せず。）調査の目的は、次の3点です。

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

今年度は、5月27日、3年生を対象に、国語、数学の2教科と質問紙による調査を実施しました。その結果と分析、今後の対策の概要をお知らせします。

1 国語【問題数14問】

- 平均正答率が全国・県平均を下回りました。平均正答率で比べると全国から5.6ポイント、県から6ポイント下回っています。問題数14問中、正答数が11問の生徒が最も多く、本校の約24%を占めており、全国・県と比べて、高い割合になっています。一方、正答数が4～5問の生徒の割合が全国・県と比べて高くなっています。このことから、国語における学力の二極化が見られるといえます。
- 領域（注1）・評価の観点（注2）別に見ると、領域では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点では「言語についての知識・理解・技能」における平均正答率が、全国・県と比べて大きく下回っていました。具体的には、「漢字の読み方」、「語句の意味」、「敬語の使い方」を答える設問における誤答が目立ちました。それ以外の領域・評価の観点については、おおむね全国・県と同等でした。

※注1 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域

※注2 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点

○問題の形式で見ると、領域「書くこと」、評価の観点「書く能力」において、無回答

の割合が全国・県を大きく上回る設問がありました。相手や目的に応じて、適切な言葉づかいや内容を考えて文章を書くことを苦手としている生徒が多いといえます。

現在、A I 型学習教材「Qubena」を利用し、漢字の読み書きの問題に家庭学習で取り組ませています。小学校から中学校までに学習した漢字の習熟状況について、生徒が確実に把握できるように、今後も、繰り返し問題に取り組ませています。また、読めない・書けない漢字については、反復練習が必要ですが、部首の意味や漢字の成り立ちについても指導し、効率よく漢字を理解できるようにします。敬語については、学習した尊敬語や謙譲語を日常生活で積極的に使うことが習熟への早道です。生徒の言葉づかいが、より適切な敬語表現になるよう、教職員全体で声を掛けていきます。「書くこと」については、これまでの授業でも、自分の考えを分かりやすく書けるように、構成や内容を工夫するように指導してきました。今後は、「自分が書く相手は誰なのか」「何のために書くのか」「どのような形式で書くのか」ということを意識させ、200字程度の短作文指導を繰り返し、その力を伸ばしていきます。

2 数学【問題数16問】

○平均正答数が全国・県平均を下回りました。平均正答率で比べると全国とは5.2ポイント、県とは3ポイント下回っています。問題数16問中、正答数が8問と5問の生徒が多く、この2つで全体の約37%を占めています。このことから、基礎学力が十分に定着していない生徒が多いことが分かりました。

○生徒質問紙調査の「数学の勉強は大切だ」、「数学の授業内容はよく分かる」という設問に対して、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」）が90%を越えています。このことから、数学への学習意欲が高いことがうかがえます。今後も、この意欲を維持させ、自信をもって授業や課題に取り組めるような授業展開を心掛けることで学力の向上を図っていきます。

○領域（注3）別では、「関数」領域の平均正答率が全国・県平均を超えました。ただし、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることはできますが、その情報を活用して解決する問題では正答率が低くなっています。

授業で行っているアンケートでも、関数が苦手と答える生徒が多く、特に関数の説明分野に苦手意識をもっています。生徒質問紙調査の「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中に活用できないか考える」という設問に対して肯定的な回答をしている生徒が多くいることから、関数を日常生活に関連させて考え、問題を解決することのよさを実感できるような授業を工夫することで苦手意識を克服させます。

※注3 「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の4領域

○評価の観点（注4）別では、「数量や図形などの知識・理解」の平均正答率は、全国・県の平均と同程度でしたが、この観点の無回答率は、全国・県平均よりも低い結果でした。スモールステップの授業や習熟度別学習の成果が少しずつ現れてきています。今後も丁寧な授業を心掛け、粘り強く課題に取り組ませることで、更なる学

力の向上を目指します。

「数学的な技能」の観点の平均正答率は、全国・県平均を下回りました。特に文章から数量を読み取って立式する方程式の問題の正答率が低い結果となっています。線分図などで問題の数量関係を整理し、数量関係を捉える活動を授業で取り入れていきます。

※注4 「数学への関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「数量や図形などについての知識・理解」の4観点

○記述式の問題の平均正答率が低い結果となりました。「事柄の特徴を数学的に説明する」、「図形について数学的に表現する」という問題は、無回答率も高く、苦手意識をもっている生徒が多いことが分かりました。授業内に説明する時間を設けたり、証明問題などの復習をしたりすることを通して、思考力を高めていきます。

3 生徒質問紙調査

- 生徒質問紙調査は、「生活、学習習慣、学習意欲」などが調査内容となっています。「朝食を毎日食べています」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」など、規則正しい生活に関する質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っています。これは、美里町が毎月行っているアンケート調査の結果とも一致しています。「朝食は1日の活力源」とも言われ、学校生活を充実させる上で、とても重要なものです。今後も家庭と連携しながら、摂取率100%を目指していきます。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という意志の強さに関わるような質問に対しても、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を大きく上回りました「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法を考える」という質問でも、肯定的な回答が、全国・県平均を超えています。「意志の強さ」これが南郷中生のよさの1つとなっています。授業中に課題に粘り強く取り組ませるなど、今後も、このよさを伸ばしながら、様々な場面で生かしていきます。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対する肯定的な回答も、全国・県の平均を上回りました。この結果は学校としてもうれしく思っています。今後も、充実した学校生活を送れるよう、しっかりサポートしていきたいと思います。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国・県平均を大きく下回りました。学校生活の様々な場面で、生徒一人一人に役割を与え活躍させながら自己肯定感を高めていきます。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問でも肯定的な回答が、全国・県平均を下回りました。コロナ禍で職場体験学習が実施できないなど課題がありますが、進路学習を充実させる方策を工夫していきます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問では、

ほとんどの生徒が肯定的な回答をしているものの、否定的な回答をしている生徒の割合が、全国・県平均と比べ高いことが気になりました。全学年で3週連続していじめをテーマで道徳の授業を行うなど、「いじめは許されない行為である」ということを指導していますが、今後も、様々な機会を利用して繰り返し指導していきます。



11月の予定

※現時点での予定です。変更になる可能性もあります。

- 1日（月）専門委員会
- 5日（金）3年生進路説明会
- 8日（月）生徒会役員選挙・立会演説会
- 15日（月）生徒会引き継ぎ式
- 24日（水）3年生、小学6年生との交流活動
- 25日（火）テスト前部活動停止（～29日）
- 2日（火）3年生救急救命講習
中央委員会
- 10日（水）教育相談（～17日）
- 22日（月）職員会議
- 30日（火）2学期中間テスト

2学期始業式を行いました。

10月13日（水）、久しぶりに対面形式で第2学期の始業式を行いました。始業式では、生徒指導主事の佐藤先生と研究主任の蘇武先生から、2学期の学校生活、学習についてお話がありました。その後、運動会集会が行われました。

